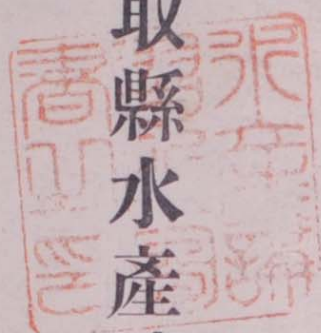


昭和七年度
昭和八年度

鳥取縣水產試驗場事業報告



五、講習	四五
------	----

養殖部

一、鱒増殖事業	四五
二、鮎人孵化放流事業	五七
三、しどみがひ移植試験	六一
四、てんぐさ蕃殖試験	六二
五、わかめ蕃殖試験	六三

昭和八年度鳥取縣水産試験場事業報告

漁撈部

一、鯖底刺網漁業試験	六五
二、鯖延縄漁業試験	七一
三、鯛延縄及烏賊釣漁業試験調査	七七
四、露濱沿海州磯船底曳網魚易調査	九三

本年鬱陵島近海ハ五月末頃ヨリ漸ク漁期ニ入り初期ニハ一船一、五〇〇—四、〇〇〇尾ノ漁獲ニテ相當活況ヲ呈セリ魚群ノ洞游範圍ハ廣汎ニ亘リ初期ハ鬱陵島ヲ中心トシタル沖合十四五哩ノ半圓内ハ一帯ニ好漁場ニテ逐次魚群ハ沖合三、四十哩ノ海區ニ洞游移動セリ

右ハ海況ノ變動ニアラズシテ鱈群ノ來襲甚シキニ因ルモノ、如シサレバ本年第二次ノ出漁當時ノ如キ島ノ漁船（小馬力ノ船及帆船）ハ沖合ニ出漁ナシ得ズシテ休業ノ状態ナリキ

鳥取丸ハ第一次及第二次ノ航海ハ境港ニテ石油及氷ヲ積載ナシ一時道洞ニ假泊翌朝早々沖合ニ出漁ナシ一夜ハ沖合ニ假泊シテ二日ノ漁ニテ漁獲物ハ總テ一箱毎ニ定數同型ノ鱈ヲ縱積ニナシ碎氷ヲ以テ冷蔵魚箱ニ收メ一路賀露港ニ直航歸港セリ

第三次航海ハ稍々漁況振ハザリシ爲メ三日漁ニテ同様ノ方法ヲ以テ施行セリ

第一次航海ハ竹島ニ於テ天候ノ關係日相待セシ爲メ往復ニ八日間ヲ要シ鱈七千七十六尾此賣揚二百九十四圓四十五錢ノ漁獲ヲナセリ

第二次航海ハ鬱陵島ニテ近年ニナキ大暴風ニ遭遇セシ關係此又往復ニ八日間ヲ要シ結局鱈四千七十九尾極小二十五箱計二百六十四圓五十二錢ノ水揚ナリキ

第三次航海ハ往復ニ六日間鱈四千八十尾計一百七十七圓五十六錢ノ漁獲ニテ前航海ニ比シテ減少セリ

右三航海ニテ總計鱈一萬五千二百三十五尾此金高正味七百三十六圓五十五錢ナリキ

四、結 果

（イ）漁場トシテノ價值

根據地即チ本縣ヨリ出漁スルニハ遠海ニ過ルモ此ハ最近遠洋漁業ノ發達シタル今日ナレバ問題トナシ得ズ只本縣漁船ガ未ダ遠洋漁船トシテノ條件ヲ具備セザル缺點ヲ有スルノミナリサレ共三五乃至六〇馬力ノ漁船ナレバ多少ノ困難ハ有スルモ航海力ノ可能性ハ充分認メ得ルモノト思惟スル

尙未同近海ノ鱈ハ浮游生物其ノ他餌料少キ爲メ魚体一般ニ肥滿セズ脂肪率少キ缺點トナ有ス

漁場トシテノ可否ハ漁場ガ頗ル廣汎ニ亘リ而モ鯖群ガ濃厚ナル點ハ近海ニ見ザル所ニテ只ソノ盛漁期ガ短日ナル缺點ヲ有ス

尙ホ同近海ノ鯖ハ浮游生物其ノ他餌料少キ爲カ魚体一般ニ肥滿セズ脂肪率少キ缺點ト有ス
更ニ寄港地トスベキ適當ナル碇泊港少ナキ缺點ヲ有スルモ漁期間中ハ例年海上モ割合平穩時ナルヲ以テ意トスベキ程ノコトヲ認メズ

右ノ如キ大体ノ漁場トシテノ價值ヲ有スル上ハ遠洋ノ鯖漁場トシテハ最モ適シタルモノト云フベキナリ
註 無人島竹島(ランコ島)ハ隱岐國ヨリ北西約八十哩ノ海上ニアリ周圍約一里ニシテ東風西風ノ時ニハ少クトモ三〇噸

以下ノ船ナレバ數隻碇泊ナスヲ得ベク更ニ同地ヲ根據地トシテ鬱陵島近海ヘ出漁スルニ最モ本縣トシテ利用スベキ適地ナルコトヲ實地調査セリ

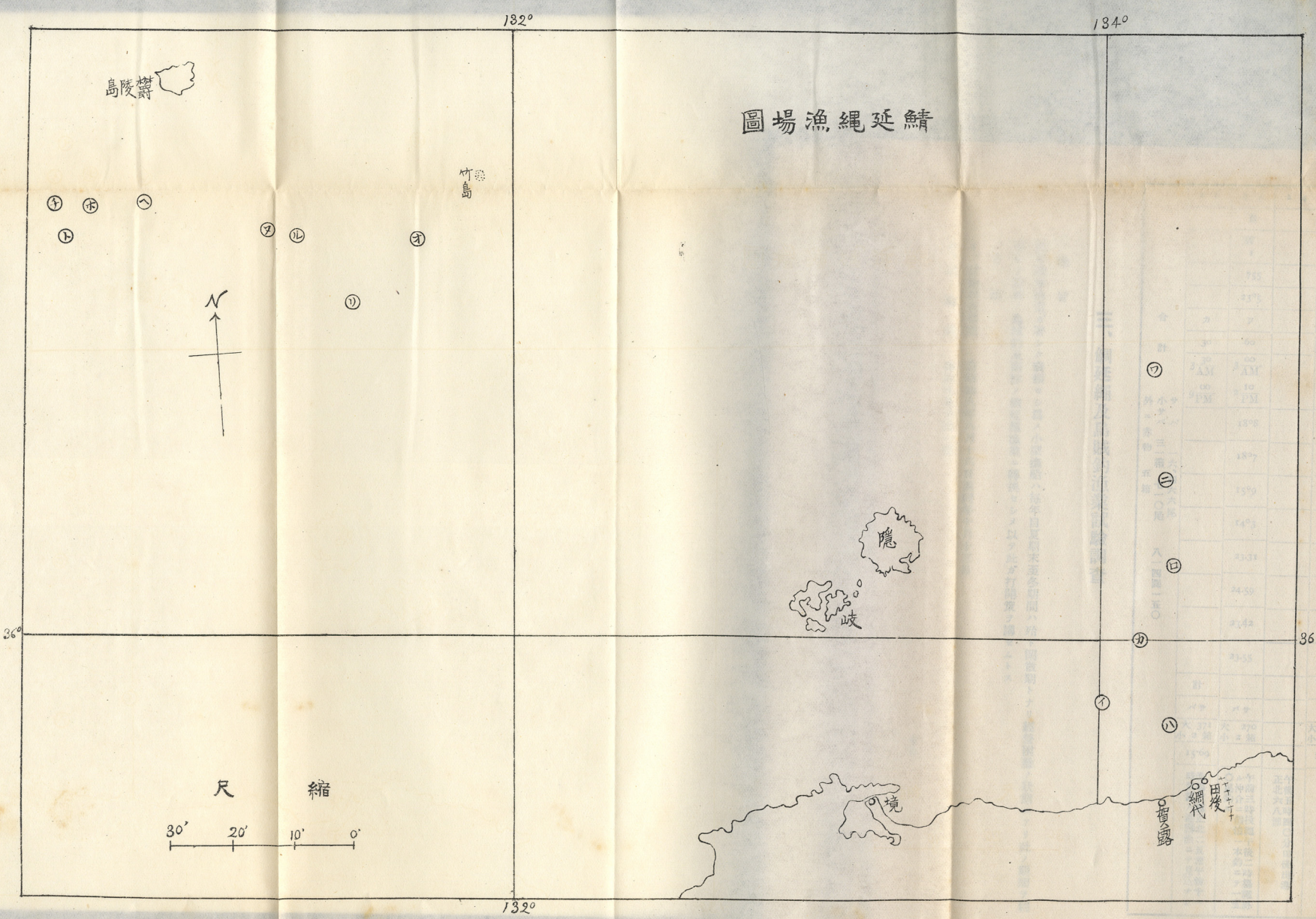
(ロ) 海況ト漁況トノ關係

未ダ試驗年次鳥取丸トシテハ淺キ爲メ此ガ關係ヲ明示ナシ得ザルモ大体同近海ノ鯖ハ表面水温一七—二〇度迄ガ同近海ニ於ケル洄游停滯限度ノ如ク思考サル即チ上述ノ水温時ハ五月下旬頃ヨリ六月下旬ニ至ル約一ヶ月位ニテ此間ノ盛漁期ハ約十日程ナリ

鯖ノ洄游移動ニ關シテハ相當重要視スベキコトニシテ七月以降ニ於ケル同近海ノ鯖群ノ進路如何ハ研究スベキ事項トス本年釣獲シタル鯖ヨリ推定スルニ

(A) 漁場圖(リ)ニ於ケル鯖ノ魚体ハ本縣沖合ノ魚体ト類似セリ本縣沖合ノ鯖ハ六月下旬頃ヨリ逐次一部ハ沖合ニ大部ハ沿岸ニ沿ヒテ北上スル沖合五〇—八〇哩ニ於テ年ニヨリ延繩ニ一日三千—四千尾ノ漁獲アル點等ヲ綜合スルニ(リ)
ノ海區ノ鯖群ガ竹島ノ南方ヲ經テ隱岐島北方ヲ北上スルモノ、如ク思考サル

(B) 大部分ノ鬱陵島近海ノ鯖ハ朝鮮沿岸ニ沿ヒテ北上一部ハ東進スルモノ、如ク思ハルモ此ガ事實ヲ確證スル爲メ明年



昭和九年八月十五日印刷
昭和九年八月二十日發行

鳥取縣水產試驗場

鳥取市上魚町二十番地

印刷者 矢谷仙太郎

鳥取市上魚町二十番地

印刷所 矢谷印刷所

電話三〇七番